

平成 19 年度 NBRP-情報-運営委員会 議事概要

開催日時: 2007年12月20日(木) 14:00 - 16:30

開催場所: 情報・システム研究機構本部 会議室

参加委員: 川口 委員 小林 委員 城石 委員 菅原 委員 鈴木 委員 田畑 委員
成瀬 委員 仁田坂 委員 深海 委員 松沢 委員(代理: 倉島 委員) 三上 委員
水澤 委員 山崎 委員

欠席委員: 荒木 委員 長村 委員

オブザーバー: 文部科学省ライフサイエンス課 竹内 佑介

ナショナルバイオリソースプロジェクト事務局 吉原 剛

【議題】

- (1) 第一期の成果報告と評価について
- (2) 第二期の業務計画について
- (3) 第二期の「情報」の活動について

【冒頭】

山崎委員より、今回からNBRP-情報-運営委員会委員長を、田畑哲之委員にしたい旨の提案があり、承認された。

【報告事項】

(1) 第一期の成果報告と評価について

次のとおり、資料に基づき、各事業について説明があった。

- 1) 情報センター整備プログラム: 山崎委員(資料2、5-2-3)
- 2) 大型類人猿情報ネットワーク(GAIN): 倉島氏(資料3)
- 3) 地球規模生物多様性情報機構(GBIF): 菅原委員(資料4)

その後、吉原オブザーバから追加配布資料「ナショナルバイオリソースプロジェクトについて」に基づき、NBRP運営委員長会議について、城石委員から資料6に基づき、生物遺伝資源委員会について報告があった。

(2) 第二期の業務計画について

次のとおり、資料に基づき、各事業について説明があった。

1) 情報センター整備プログラム: 山崎委員(資料2)

2) 大型類人猿情報ネットワーク(GAIN): 倉島氏(資料3)

倉島氏より、利用者としての研究者と飼育施設との良好な関係を維持するために研究者からの情報提供は必須であるとの説明があった。

3) 地球規模生物多様性情報機構(GBIF): 菅原委員(資料4)

【 検討事項 】

(3) 第二期の「情報」の活動について

1) 今年度の活動について

山崎委員より、安定運営を念頭に活動し、リソース機関による自律的情報管理のために、簡単に操作のできる情報管理システムを開発する。合わせて情報技術講習会も予定しているとの説明があり、各委員から以下の意見を得た。

- ・自律的情報管理システムに的を絞った講習会がよいのではないかと
→すべてのリソースに共通するシステムではないので難しいが、紹介することはできる(山崎)。
- ・明確な需要があるかどうかと必要な労力のバランスを考えるべきではないか。
- ・具体的なコストダウンにつながる講習会ならばサポートできるが、他のリソースで立ち上げている人材育成プログラムと合同ですることも可能ではないか(文科省)。その結果、今後とも委員の意見を参考にし、自律的情報管理の方向性について検討していくこととなった。

2) 利用者からのフィードバックについて

冒頭、吉原オブザーバより、資料5に基づき、提供されたリソースがどのように利用され、いかに論文として発表されているかの把握につき説明があった。

それに基づき、本案件について、山崎委員より、情報を利用した論文収集について説明があり、各委員から以下の意見を得た。

- ・文科省としては、情報センターのホームページを使って論文がでるところまでは想定していなかった。本来の情報センターミッションは各リソースのフィードバックをまとめる役割である。
- ・きちんと出所のわかっている材料を使った研究でなければ、ジャーナルでもアクセプト

トしないという体制にもっていくことが大事。NBRP 推進委員会などが専門家としてアピールすべき。

・データベースは利用者を獲得し、それが少しずつ増えているという具体的な数字をアドミニストレーションに提供することが大事。その結果、データベースの利用者からのフィードバックは論文ではなく利用者数であるという理解で一致した。

3) 質の評価

山崎委員より、資料5-2-3に基づき、どのようにデータベースの質を評価していくのかについて検討事項の提案があり、各委員から以下の意見を得た。

・リソースの運営委員会の中にデータベースに対する議論を必ず入れるようにしてはどうか。

・ユーザーがある程度満足しているというデータがあるのなら、それを集めて、質を証明すればよい。

・質については市場が決めるのではないか。

・運営委員会にユーザーをたくさん入れて検討したらどうか。

その結果、各リソース中核機関の運営委員会でデータベースユーザーの声を吸い上げて、それをフィードバックしてもらう体制を作ることが必要との結論を得た。

4) 目標設定

山崎委員より、情報センターの最終形について、何をもって達成したとするのかについて検討事項の提案があり、委員から以下の意見を得た。

・情報センター側がやりたいことをやるべき。

・ナショナルバイオリソースプロジェクトの中のすべての生物種のゲノム情報とこちらの世界をつなげてくれるシステムはどうか。

→理想的ではあるがゲノム情報をどこまで NBRP で取り扱うのかは判断が難しいところがある(山崎)

・国の予算が無くなった時の対策をとりあえず取っておかなければならないが、目標とはそういうことではないのか。

その結果、これについてはここでは結論は出さず、引き続き検討していくことになった。

(4) その他

委員長より謝辞が述べられ、閉会した。